

## 九州大学病院

研修医 中島 裕子 2017年11月

九州大学病院の地域医療として11月にお世話になりました。今まで九州北部でしか生活をしたことがなく、鹿児島県内に足を踏み入れるのは今回人生で2回目でした。知らない土地で地域研修をしたいという想いがあり、出水を選択させていただきました。不安もありましたが、宗清先生はじめ臨床研修センターの方々のおかげで一か月間楽しく生活を送ることができました。

私は第1週野田診療所、第2週高尾野診療所、第3~4週院内で研修をさせていただきました。野田診療所では、内視鏡検査や超音波検査などを丁寧にご指導いただきとても勉強になりました。また外来の陪席では、診察の仕方や患者さんへの生活指導など外来診療スキルを学ぶことができました。訪問診療では、寝たきりやまた様々な環境の中で生活している方々と接し、色々と考えさせられました。高尾野診療所では、実際に外来診察を経験し、限られた時間で必要な情報を処理することの難しさを身に持って感じることができました。また、患者さんによって考え方が違うので生活指導の仕方も様々でとても勉強になりました。保健センターでの研修は、保健師の方々の仕事を間近でみることで地域での保健所の役割や必要性を学ぶことができました。また、上場診療所にも行かせていただき、患者さんは少数ではありましたが、どこであろうと医療は必要とされており、どんな環境であろうと患者さんに対して必要な医療を提供することの大切さを学ぶことができました。

院内研修では主に消化器内科で研修をさせていただきました。藤田先生をはじめ先生方には本当にお世話になりました。上下部内視鏡検査、ESD、ERCPなど様々な手技をみることができ、大学のように細分化されておらず、総合的な幅広い知識を必要とすることを学びました。また、胃瘻造設目的で入院となった患者さんを担当させていただき、胃瘻は高齢化がすすむ日本と深く結びついていることを学ぶことができました。その他院内の多職種研修(回復期病棟、地域医療連携室、医療安全、薬剤科、臨床検査科、リハビリテーション技術科、臨床工学科など)もさせていただき、それぞれの職種の知識の深さや大変さを感じました。また、医療はこのように幅広い職種の方々に支えられ成り立っており、連携なくして現在の医療は存在しないのだなと改めて感じることができました。

全体を通して、私が地域研修をして得たものは何だったのだろうと考えました。超高齢社会の日本の現状を垣間見たこと、かかりつけ医や在宅医療の大切さや僻地医療の必要性を学べたこと、多職種の方々と連携して医療は成り立っていることを身に染みて感じたことなど得たものは非常に多くあります。しかし、現状を知っても解決するだけの能力がないことを痛感させられました。まだまだ医師として始まったばかりの私ですが、今後この気持ちを忘れず精進していきたいと思いました。

出水での生活は本当に楽しかったです。名物のツルに癒され、市民駅伝大会では出水の方々の優しさに触れることができました。同期である藤善先生にもお世話になり、11月にこちらで研修できた私はとても運が良かったと思います。また出水に遊びに来たいです。